

昭和44(1969)年12月7日 豊橋市で発生した竜巻

概況

日本海と太平洋側にそれぞれ発達中の低気圧があり、太平洋側の低気圧の中心から温暖前線が太平洋沿岸にのびていた。7日18時、四国付近に進んだ低気圧からのびる温暖前線は豊橋市付近に位置し、温暖前線の南側では南から南東の暖かく湿った風が吹いていた。竜巻はこの温暖前線の南側で発生した。

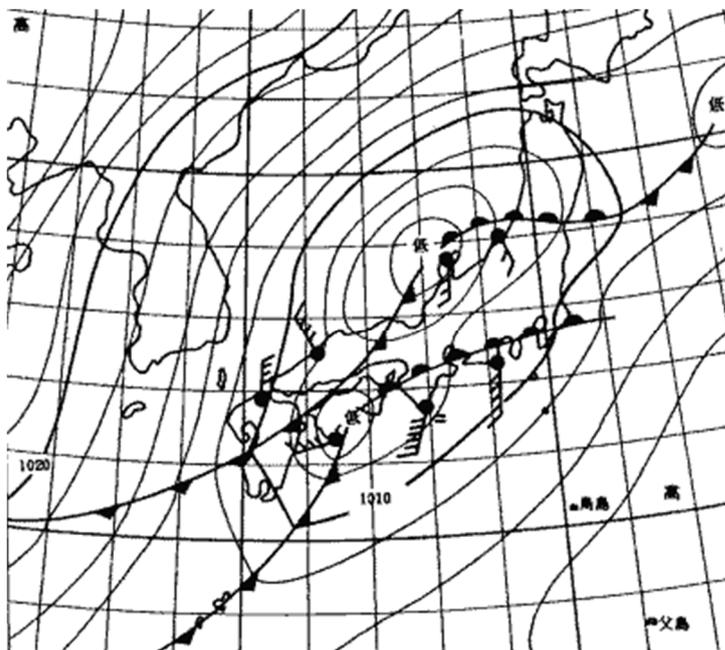
竜巻は、豊橋市西橋良町付近で発生した後、JR東海道線を横断して北東へ約1 km 進み、その後北北東へ向きを変えて、まっすぐ市街地の中心部を通過して下地・大村方面に向った。竜巻の通過時刻は、西橋良付近で18時00分頃、豊橋駅南東で18時02分頃、下地町で18時05分頃であり、推定速度は時速約50kmであった。

被害は、下地町地区が最も甚大で、今回の被害の大半を占め、国道1号線沿いの壺屋ドライブインでは、窓ガラス全部と鉄板の屋根が吹き飛ばされ、店内で食事の客約20人と駐車中の20台の車が横転したため、車内にいた約10人が重軽傷を負った。

規模は強く、通過地点が市街地だったこともあり、死者1名、負傷者69名と人的被害が多く発生した。

「竜巻による」愛知県被害状況 (愛知県災害誌から)

人的被害	死者 (人)	1	住家被害	全壊 (棟)	10
	負傷者・重傷(人)	12		半壊 (戸)	46
	負傷者・軽傷(人)	57		一部破損(戸)	56
その他	停電 (戸)	20,000		非住家 (棟)	22
	電柱の傾斜 (本)	10			
	ビニールハウス・ガラス温室破損	8件			



地上天気図(昭和44年12月7日18時)

竜巻発生時の7日18時の地上天気図である。四国付近の低気圧からのびる温暖前線は、紀伊半島を通り、東海道沿岸から房総半島へのびている。また、温暖前線の南側では、暖かく湿った南よりのやや強い風が吹いている。